

[2017]九州大学情報統括本部年報 : 2017年度

<https://hdl.handle.net/2324/2203028>

出版情報 : 九州大学情報統括本部年報. 2017, pp.1-, 2018-10-01. Information Infrastructure Initiative, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

2017 年度年報の発行にあたって



2017 年度情報統括本部長 安浦 寛人

情報統括本部は、九州大学の全構成員（学生および教職員）に教育・研究・事務・診療に必要な情報基盤（インフラ）と各種情報サービスを提供することを目的とし、情報基盤研究開発センター、事務局情報システム部、および附属図書館の3つの部局を中心に、全学的な組織として2007年度に発足しました。情報統括本部自体は教員と技術職員と事務職員からなる部局横断的な組織ですが、必要に応じて全学からの協力を得ながら、幅広く継続的かつ実質的な活動を行っています。

2017年度は、引き続き安浦が情報担当理事・副学長として本部長（CIO(Chief Information Officer)とCISO(Chief Information Security Officer)を兼務)を担当し、谷口情報基盤研究開発センター長（副CIO）、坂本情報システム部長（副CIO）、岡田附属図書館付設教材開発センター長（副CIO）および岡村サイバーセキュリティセンター長（副CISO）とともに情報統括本部のガバナンス体制を整備してきました。情報統括本部が従来から提供しているネットワーク、無線LAN（kitenet、edunet）、認証基盤、全学基本メールなどの運用、ソフトウェアの一括契約による情報環境の整備や学生PC必携化への対応などに加えて、次のような重要なサービスの運用を変更・改善しています。

新しいスーパーコンピュータシステム ITO は、10月に試験運用を開始し、1月より本運用を開始しました。米国Intel社の最新CPU(Xeon Gold, Skylake-SP)と、米国NVIDIA社のGPU(Tesla P100, Pascal)を搭載し、総理論演算性能約10.43PFLOPSを有する国内トップクラスの能力をもつシステムであり、従来の計算科学への利用にくわえ、AI（人工知能・機械学習）やビッグデータ、さらにデータサイエンスの研究にも活用できる構成になっています。また、激しさを増すサイバー攻撃に対応するために、CSIRTの機能を強化するとともに、学内の教職員に対する訓練やe-Learningによる注意喚起も進めました。契約上の問題で、大学より無償で提供するセキュリティ対策ソフトの変更をする必要があり、学内関係者と本部メンバーの多大な努力によって、無事に変更を終わらせることができました。

5月には、我が国の指導的な外部有識者を招いて、過去10年間の情報統括本部の活動の外部評価を行っていただき、高い評価と貴重な改善に関するご意見をいただきました。今後も、めまぐるしい情報技術の進歩と利用者のサービスニーズの変化に対応するために、常に事業室等の構成や所管事項を見直し、実情に即した体制作りを心がけていきます。本報告は、2017年度の主な活動を報告するとともに、将来のサービス向上に向けての方針や方向性を学内外の利用者に周知することを目的としています。情報統括本部が、学内外の利用者の視点に立って、新しい技術を取り入れつつ、安全・安心に、安定して、使い易い情報基盤と情報サービスを提供していけるように、利用者各位の忌憚のないご意見やご要望をいただければ幸いです。